

日本初の自動運転モビリティによる サービス実用化に向けた技術研究開発

～愛知県発Level4自動運転サービス実用化～



名古屋大学 特任教授
二宮 芳樹

研究リーダー：名古屋大学 特任教授 二宮 芳樹
 事業化リーダー：アイサンテクノロジー(株) 佐藤 直人
 参画機関：アイサンテクノロジー(株)、岡谷鋼機(株)、KDDI(株)、(株)建設技術研究所、損害保険ジャパン(株)、(株)ティアフォー
 名古屋大学

The goal of this project is to realize product level MaaS (Mobility as a Service) system using high automated driving vehicles until the end of half year of FY2020. This project also includes development of unit technologies, such as fleet management system, remote management system including cellular communications, 3D geometry & semi-dynamic information level dynamic map system, safety assessment including insurance and automated driving AI for highly automated driving vehicles.

課題／背景

自動運転による旅客・物流サービスへの期待が高く、MaaSの事業化モデルのいち早い実現が喫緊の課題です。これまで、本プロジェクトチームで自動運転技術についてはコアとなるオープンソースソフト「Autoware」を開発し、日本・世界の数多くの場所で実証実験を行い、多くの実績とノウハウを蓄積してきましたが、まだ事業化モデルを含むMaaSシステムとしての構築には至っていません。また、自動運転モビリティによる実証は全国各地で行われていますが、日本国内で自動運転モビリティによる「サービス開始」にはこぎつけていません。課題は、事業化レベルのMaaS全体システムの構築と、必要となる要素技術の実用レベルへの機能及び信頼性向上です。このためには、自動運転技術のゴールは、実証試験でなく、実用化レベルの人の移動に資する技術でなければなりません。私たちは自動運転システムの第一人者として、愛知県発・国内初の『自動運転モビリティサービス実用化』を知の拠点重点研究プロジェクトで、愛・地球博記念公園において実現することを狙いとしています。

(※)「Autoware」はAWFの商標です。

開発内容／目標

本研究ではユーザの満足度の高い事業化可能なMaaSシステムの実現を目標とします。

(2021年度完成)(目標:ユーザ満足度90点以上)

また、そのために必要な以下の8つの要素技術の実用化レベルへの機能と信頼性向上を達成します。

- ・運行管理技術
- ・利用者向けサービスアプリケーション開発
- ・完全自動運転AI技術(機能向上)
- ・遠隔監視・制御技術
- ・安心見守り・緊急時サポート技術
- ・リスクアセスメント
- ・地図自動更新技術
- ・ダイナミックマップ連携技術

